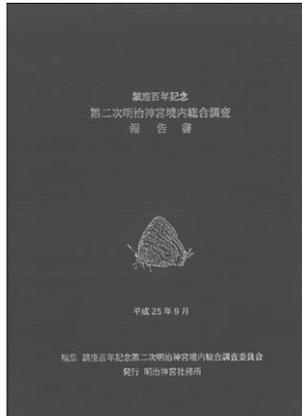




「鎮座百年記念第二次明治神宮境内
総合調査報告書」
鎮座百年記念第二次明治神宮境内
総合調査委員会（編）、2013年9月。
A4判、510頁、上製本・箱入り。
明治神宮社務所（発行）。

明治神宮は東京都渋谷区に位置し、総面積約70ヘクタールに及ぶ東京都区部では皇居に次いで大きな緑地である。都区部の生物相はこの四半世紀のうちに、自治体等の努力によりその全容が解明されてきたが、そのなかで唯一明治神宮だけが、植物などを除けば、ほぼ未調査の聖域として残されていた。

このたび、表記の調査報告書が、明治神宮社務所より出版された。報告書のタイトルに第二次とあるのは、1980年に同様の調査報告書が出版されているからである。その際には、植物は広く調べられたが、動物は鳥類と土壌動物（ダニ類とトビムシ類）で調査を実施しているにすぎない。第二次調査では、脊椎動物と無脊椎動物の多くの動物群の調査結果が取りまとめられた。なかでも昆虫類は、次のような分類群が扱われている（括



弧内は著者を示す)。

トンボ類（苅部治紀）、直翅系昆虫（山崎柄根）、半翅類（腹吻類を除く）（石川忠・林正美）、脈翅類（藤森健史・新里達也）、甲虫類（岡田圭司・平野幸彦・新里達也）、ハバチ類（篠原明彦）、有剣膜翅類（寺山守）、ヒメバチ科ほか（渡辺恭平）、双翅類（伊東憲正）、蝶類（高桑正敏・佐藤岳彦）、蛾類（岸田泰則）。

明治神宮の調査は、2011年夏から2013年春の1年半余りの短期間に実施されたものである。甲虫類は564種が記録され、決してその数は少ないが、750種以上が記録されている皇居には遠く及ばない。それでも、本調査による甲虫類の東京都新記録種は11種に及び、皇居から未発見の種も多数記録された。神宮の杜の豊かな生物多様性を綴るこの報告書は、都区部のみならず南関東

平野部の生物相を概観するうえで、重要な文献であるものと確信している。

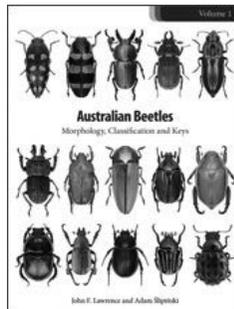
本書は少数限定出版ながら、現時点でまだ購入することは可能である。（株）環境指標生物（bio@bioindicator.co.jp）または昆虫文献・六本脚（roppon-ashi@kawamo.co.jp）において、定価14,500円（税別）で扱っている。

（新里達也）



Lawrence, J. F. & A. Slipinski, 2013.
Australian Beetles Volume 1
Morphology, Classification and Keys.
576 pp., CSIRO publishing.

甲虫類の教科書が出版された。コウチュウ目を俯瞰した教科書としては、最近では Handbook of Zoology (vol. 1は2005年出版) や American Beetles (vol. 1は2000年出版) が挙げられるが、本書はそれらよりも図表が多く、知見も最新であるため、それらを入手していない人にはお勧めである。いや、最新の知見を得られる書籍としては、比較的小手ごろの金額だと考えられ、それらを持ってい



る人にもぜひお勧めしたい。本書は3巻完結の1巻目で、概説と科への検索と科の概説が含まれている。続巻は各科の詳細な解説とのである。

六本脚のほか、CSIRO publishingのHP (<http://www.publish.csiro.au/pid/6466.htm>)でも直接購入できる。直接購入する場合は、195ドルで、Kindle版は122.96ドル。

（吉富博之 愛媛大学ミュージアム）